「60周年事業報告書を読み解き、語り合う会」開催記録用紙

|  |  |
| --- | --- |
| 開催地域同窓会 | 北海道地域同窓会 |
| 開催日時 | ２０２５年３月１３日(木)　17：00~20：00 |
| 開催場所 | 札幌市中央区北２条西７丁目道民活動センタービル　かでる2・7 |
| 開催形態・内容 | 通学４名　通信４名の２班に分けてのグループワーク |
| 地域同窓会としての実施後の感想 | 最初に訓覇先生からこの報告書の読み難さについて説明があり、その後軽い自己紹介からスタートした。参加者の半分はフォーカスグループに参加したメンバーであったため、順調に進むかと思われたが、実際のところ、訓覇先生から提起された質問に対して、話していく経過の中で論点が違うところに行ってしまう事も多く、先生から鋭く質問されることも多々あり、回答に詰まることや方向修正が大変であった。目的とする回答にはどうにか結び付ける努力をしたが、先生の納得できる答えかどうかは疑問である。  短い時間での話し合いではあったが、社会福祉の専門性を我々は身に着けて卒業したのであろうかという疑問は残った。それぞれが感じる社会福祉の専門性とは何を指すものなのか、理解が難しい部分である。  通学生と通信では専門性の捉え方が当然違う部分である。それぞれの方が日本福祉大学に何を求めて入学して、何を得て卒業したのか？その感じ方によってもこの報告書の捉え方は違うであろうし、歴史的な学びの背景になると、通学生は強いが、通信の学生は理解が出来るわけもなく、そのことは訓覇先生もはっきりと言っていた部分である。  結果的に訓覇先生から、多角的に論議がされた良い会であったと評価を頂いたが、まとまりがなかったのは否めない事実であった。  　全体的な専門性を獲得したかという部分では何とも言えないが、専門性を身に着ける基盤はしっかりと学んでいる。その事が卒業後の福祉の仕事の専門性を身に着けるベースになったことは重要であろう。  この報告書についての見方も賛否両論があると感じるが、完成度は高いと思う。  色々な意味で開催した意義を感じられる会であった。  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（報告者：梅下忠弘） |
| 参加者情報・参加者数（　　　　８＋2人） | |

